

## 台風13号

道路被害83か所  
全面通行止め34か所

# 日本共産党が早期復旧を申し入れ

# 市が9月議会での予算措置を約束



市に申し入れる党市議団と西地区委員会の各氏(向こう列)=19日、広島市役所

### 党議員、支部 いち早く現地に駆けつけて調査、聞き取り

17日未明の台風13号接近に伴う豪雨で佐伯区湯来町や安佐北区で道路や河川護岸の崩壊など大きな被害が発生したことをうけ、日本共産党市議団と党広島市西地区委員会は19日、市に復旧対策を急ぐよう申し入れました。

党市議団の5議員とおおうえ和子党県女性児童部長、牧野一見党佐伯区市政対策委員長、清水てい子党安佐北区くらし・福祉対策委員長が参加し、市側は高山茂道路交通局長、傳平(でびら)益三消防局長らが対応しました。

湯来町では国道433号線の崩壊で遠回りを余儀なくされ、保育園の送迎に約2時間かかるなど生活への影響が深刻です。また、安佐北区では社会福祉施設の玄関前道路が崩壊し、デイサービスの車が入れない状況が続いているなど多くの被害が出ています。申し入れをうけて高山局長は、「道路被害は全市で83か所で全面通行止めは34か所。9月議会で災害復旧のために臨時の財政措置をとりたい。工事の工法も検討したい」などと答えました。



**牧野一見**  
党佐伯区市政対策委員長

昨年の台風での崩壊箇所の復旧工事が済んでいないために二次災害を招いたところもあります。合併後の道路復旧工事の遅れに住民からも批判の声があがっており、行政災害と言ってもいい。せめて梅雨前には工事を完成させるのが行政の努めだと思います。

## 現地をまわって

可部大林の根谷川と入甲川の合流地点の護岸は、地元が改善を長年要望してきたのに放置されたままで、住民の不満は募るばかりです。安佐町小河内では道路の拡幅工事部分がそっくり陥没しており、工法についても検討の余地があるのではないのでしょうか。



**清水てい子**  
党安佐北区くらし・福祉対策委員長

## 安佐北区の要望事項

- ①根谷川と入甲川との合流個所の護岸の再整備を行うこと。
- ②大林町の老人福祉施設「山まゆ」に被害があり、デイサービスの車が入れないなどの事態になっている。玄関前道路の修復を早急におこなうこと。(写真1)
- ③中村碎石の共同住宅が倒壊のおそれがあるので、周辺の道路を早急に修復すること。(写真2)
- ④小河内小学校の下の通学路の安全確保のために、早急に道路を復旧すること。(写真3)
- ⑤小河内、小峠バス停付近の住宅の生活用橋と道路の復旧を急ぐこと。(写真4)
- ⑥小河内黒瀬口バス停前に谷から大量の土砂流出あり。砂防ダムなどの対策を検討すること。



(写真3) 道路が大きく崩落し通行できない小河内小学校の通学路



被災地で要望をきく藤井とし子議員(左端)と清水てい子氏(中央)



(写真1) 崩壊した老人福祉施設「山まゆ」の玄関前道路(大林町)



(写真4) 車線の片側が崩落した小河内の道路



(写真2) 建物の底がえぐられて倒壊のおそれがある共同住宅



## 佐伯区湯来町の要望事項

### (1) 麦谷の国道433号線の決壊通行止め箇所について (写真1)

迂回路がないので学校の通学、保育園の送迎、通院を含め、日常の市民生活に極めて深刻な影響が出ている。旧道の下流側出口を鉄板で補強するなどして普通車だけでも通行できるようにすること。その上で、バス通学の児童生徒について臨時にワゴン車などの運行を行うなど、通学の便をはかること。

### (2) 水内地区の農村環境改善センターへの通行について (写真2)

橋の早期復旧を図るとともに、最低限、農村環境改善センターへの通行を確保するため、仮の歩道橋の設置をするなど検討すること。その際、近辺に駐車場の確保が必要。

### (3) 湯の山温泉館(湯来ロッジが管理)の早期開館を

給湯用ポンプの浸水で閉館となっているため、周辺の食堂や旅館の経営に深刻な影響が出ている。早急な復旧とともに、開館の見通しを示すこと。なお、給湯用ポンプ浸水は管理ミスによる人災との住民の指摘がある。豪雨などの際の浸水を防ぐための措置を管理マニュアルで整備すること。

### (4) 湯の山クアハウス敷地の雨水排水路の整備について

湯の山クアハウスの敷地(駐車場を含む)の雨水が農業用水路に流入するため、あふれて付近の水田が水浸しになり倒壊したりしている。必要な水路の整備に取り組むこと。

### (5) 県道広島-湯来線、門出口地域の不明谷川の水流による路面の災害復旧について

川床の岩盤除去などで川床を深くするなど再発防止の措置を取ること。川床と路面の高低差が小さく毎年のように水流が道路に上がり家屋が浸水している。

### (6) 国道433号線麦谷地区の昨年の災害復旧の工事中箇所が再度崩壊したことについて

ブロック積や機械が流れ、農村環境改善センター入口の橋も崩壊するなど、工期の遅れがせつかくの復旧事業を水泡に帰したばかりか、新たな2次災害まで引き起こした。災害を伴う大雨や台風は毎年起きており、これを教訓に、今後特に河川増水による災害箇所の復旧は6月の梅雨時期までに完了する計画とすること。

### (7) 下記災害箇所については、県に要望していただきたい。

- ① 水内川草谷橋下流左岸堤防の昨年被害箇所が完了直前で再度決壊した。これは、真砂土の上にマットを敷いて薄いコンクリートブロックを載せただけのぜい弱な構造で、1メートルのコンクリートブロックさえ押し流すほどの水流にとっても持ちこたえるようなものではなく、工法が間違っているとの住民の批判が出ている。再び重大な被害が生じることのないような工法をとるべきである。(写真3)
- ② 木藤谷(砂防河川)の堰堤に大量の土砂や流木が埋まったので、早急に除去しないと下流の家屋が危険である。また、木藤谷に設置されているドコモの携帯電話用アンテナの早期復旧を要請していただきたい。
- ③ 水内川は大量の土砂で川床がかなり上がっており、堤防や護岸崩壊の危険を増大させている。早急に浚渫工事をするべき。
- ④ 八幡川河内原地区岡村宅裏の護岸崩壊箇所は家屋に被害が及ぶ危険があるので、急いで復旧が必要。その下流の最初の橋から谷水が路面へ上がっており、早急に川床の浚渫をしていただきたい。



(写真1) 決壊した国道433号線。生活道路が通行止めになり、通勤、通院、通学、保育園の送迎など生活に大きな影響を与えています。



(写真2) 崩落した農村環境改善センター前の橋。昨年の台風災害の復旧工事の遅れが誘因。



(写真3) 水内川の濁流で崩壊した昨年の台風災害の復旧工事現場(草谷橋左岸)。豪雨時期までの工事期間やぜい弱な工法に批判が出ています。



被災直後、湯来町内の被害箇所を調査してまわる牧野一見氏。写真は伏谷地区